

職員にのぞむ

玉川喜代子

一心不乱にてんでが紙を切り、箱に穴をあけ、筆で塗ったり、糊つけをしたり、材料集めに歩いていたら、先生はいろいろな要求や質問に答えながら、せっせと鉄を動かしている。そうした三昧境、可愛い子ども鼻歌もきかれ、紙屑だらけのお部屋であっても、それは本当に貴い雰囲気である。

また陽のあたる園庭いっぱいあちこちのグループは段々ふえて先生がたも全部、方方のグループに入っている。レコードは流れて、ジングルベルや風や火花など、皆みごとに胸をはって手足を動かしている。先生も園児も眼を細めて楽しそう。この有様をブランコをふりながらすべり台をすべりながら、お砂の山をくずしながらい、何となくニコニコして眺めているがそれはいつかりズム的な動きをしている。これは自由遊びの一コマながら、また無私の境地である。私は本当に子どもの中にはいつ、園児と一体になって楽しんでる先生の姿に何か眼頭が熱くなって、ふと涙ぐむことさえある。またどうしてもあの先生の受持にさせて頂けないかと、おぼえず申し出る方が何人かある。陰日向なくよく子どもの面倒をみて下さるので、子どもがああ先生の組になりたいと入園前から理想をえがいていた

のだと言う。このようにして園児から、また保護者から、絶対の信頼を受けている先生がたを擁していることは本当に幼稚園としての強みだと思う。

すなわち園長の心を心として皆和協力日々を向上していくことだといつも話合っている。

お互い単なる母性愛に止らないで、子どもの成長発達をよく理解し、一人ひとりの価値を認め幼児の慾求をみだしてやると共にみえない慾求をも引き出して善導すべきだ。それには幼児の個性を科学的に調査し診断し洞察して各個の保育に邁進したいと思う。

それにはお互いがよりよい人間として向上していききたい。映画観賞、音楽会またはよいラジオをきく、また立派な絵画や、劇を鑑賞すると共に絶えず新刊図書に注意し、良書をおさることだ。研究会講習会にはつとめて出席をすること。

内的に自己を錬磨すると共に外貌においても、ほどよい身だしなみと端麗な容姿でありたい。耳飾や、濃いルージュ、絶えずパフを使用している時、本当に子どもの中にとびこめない。

健康で若鮎のようにピチピチしている。そしてよい性格の人であらねばならない。私はいつも職員がたに話すことだが本当に子どもは自主性を尊びその個性を尊重し絶えず先生は一步下って、園長を中心に和衷協同協力一致、日に日に向上と研究の一步を進まれてほしいと考えている。

園長にのぞむこと

「園長にのぞむこと」幼児教育の実際場面につく保育者の立場から、園長に望むことを便宜上三項目に大別し、更にそれを細記してみた。

一、園長の人柄その他に関して

- 1、すべての点で尊敬に値する人であること。
- 2、視野の広い豊かな人柄のもち主であること。
- 3、主義主張、信念をはっきり確実に持っていること。
- 4、立場を換えて物事を考える余裕のある人であること。
- 5、独裁者でなく、民主的であること。
- 6、新しい時代の流れ・変化・落着を洞察できる人であること。
- 7、幼稚園教育の本質、カリキュラムおよびその他実際面の事柄に精通していることが最も望ましいが、すくなくとも精通しようとする熱意があること。
- 8、幼児の家庭や地域社会へ働きかけ、幼稚園内外の融和に努めること。

二、保育者に関して

- 1、保育者に対して理解をもつこと。
 - 2、保育者としての人格を尊重すること
- (例えば園児の面前では、担任者の面

幼稚園教師に

のぞむもの

井藤利邦

最近私は全国、徳島県の幼稚園の先生に接する機会が多いので、その観点から思いつくまま希望を書きます。

一、保育時の教師の服装を活動的にする。

特に遊技、遊具使用の際、トレパン、運動靴を着用すれば活動性に富む幼児の先頭に立って、幼児と一体となった美しい指導が展開されるでしょう。

二、戸外運動を盛んにしてほしい。

幼児は勿論教師自身が室内に籠らず戸外でマット運動、鉄棒ぐらいは練習したいものです。

幼児は低鉄棒などやっているのですから、

三、幼児教育については、すじの通った学識を深めること。

高低は申しません。一応の見識はもってほしいと思います。指導技術は仲々よろしいです。幼児教育については自信を以て、話したり書けるようにしたものです。

四、人間的教養を高くする

幼児教育を除いたら、なんにも残らない

教師なんてつまらないです。巾の広いと言うか豊かな人間性を培ってもらいたいと思います。

五、趣味のある人であってほしい。

教育そのものが趣味などと言う人もありますが頂けません。絵、写真、文学などいくらかありましよう。何かのグループに所属しているかたは、どこか優れた高いものをもち、保育の面にも、そのよさが出ています。

六、研修題材を毎日の保育の中に求める高踏的な理論でなく、一人の幼児の行動に、一枚の絵に求める態度が必要です。

七、工夫創造性があるしてほしい。

一例として絵画製作の場合、材料として既に完成近いものでなく、空缶、空瓶の利用、田舎の自然物利用、石絵など、教師の工夫創造性は大切である。遊具にしても未開拓の所があると思われる。

八、公平無私の態度

保護者の身勝手な観察もあるが、教師も感情的で皆無とは云えぬ。特に教師の性格的なもの、家庭的な原因を排除して、すべての幼児に公平でありたいと考える。

九、円満な人格をつくること。

読んで字の如し、よい家庭から生れる。よい妻、よい娘よい母であることは、暗い家族の人間関係から生じる。

一〇、教育は精神的に若さが必要。

年令の古い人に大切、毎年幼児は新しいから、半は自分に云いきかせる意味で。

子を失しないよう気をくばる)

3、保育者の個性を重んじ、実際の保育に関しては基本的な方針の他はまかせてくれること。

4、園長としての信念や保育に対する考え方をおしつけるのではなく、こういう考え方もあるのだという形で示してくれること。

5、保育者の質向上の為に研究の機会を与えてくれること。

6、園長をも含めて保育者同志、従横の關係がスムーズにいくように努めてくれること。

7、仕事のことは勿論、個人的な問題でも保育者のよき相談相手であること。

三、園児に関して

1、現実の社会とそこで成長していく幼児を関連させて理解する人であること。

2、幼児のすきな人であること。

3、幼児から親しまれること。

4、つねにほほえみをもって幼児と接することのできる人であること。

5、園児一人ひとりを覚えること。

6、園児と一しよに遊ぶことができる人であること。

7、たとえ園長が事務的に忙しいか、または要務に気をとられているようなときでも、園児から話(たとえば朝晩の挨拶)かけられたら、すぐそれに軽く応答するだけの柔軟さがあること。